

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	14-140	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Work stress and alcohol consumption among adolescents: moderation by family and peer influences. 若年者における労働のストレスと飲酒の関係：家族や友人の影響		
執筆者		
Liu XC, Keyes KM, Li G.		
掲載誌		
BMC Public Health. 2014 Dec 18;14:1303. doi: 10.1186/1471-2458-14-1303.		
キーワード		PMID
若年者、労働、ストレス、飲酒		25523951
要 旨		
目的： 若年者の過度の飲酒は健康や学業に有害である。学校環境の外での若年者の労働事情に、親や友人がどのような緩衝効果をもたらすかについての検討はほとんどなされていない。本研究は、若年者の労働のストレスと飲酒頻度や過量飲酒との関係性に対する、両親や友人の影響や修学意識の影響を検証することを目的とした。		
方法： 米国の grade12 (日本の高校3年生相当) を対象とした 2005 年から 2009 年の 5 年間の年次全国調査データを解析に使用した (n=12,341)。飲酒の頻度は過去の人生での回数、過去 12 ヶ月間での回数、および過去 30 日間での回数から分類した。独立変数として、仕事のストレス (仕事の満足度、安全性、所有物の安全性)、修学に対する意識、両親や友人の影響を設定した。		
結果： 過去 12 ヶ月間では、仕事のストレスは飲酒と関連していた。(オッズ比=1.12, 95%信頼区間 1.02-1.23)。層化解析によると過去の人生および過去 12 ヶ月間で、友人の関わりは仕事のストレスと飲酒の関係を有意に緩和していた。仕事のストレスのある若年者における過去の人生での飲酒のオッズ比は、友人との好ましくない関わりで 1.09 (95%信頼区間 0.97-1.22)、比較的好ましい関わりでは 0.83 (95%信頼区間 0.71-0.97) であった。		
結論： 問題のある飲酒は仕事のストレスのある高校生で多く認められる。しかし、友人との良い関わりは、仕事のストレスと飲酒との関係を緩和しているようである。		